

JAPANブランドに乗る カナディアン・トップライダーたち



2013年のTOYOTAビッグエアで優勝を果たしたアントワヌ・トゥルシオン（CAN）に続き、2人目のカナディアン・ライダーとして、20歳のアップカマーのマックス・エバーハートがJAPANブランドの代表格でもあるYONEXのボードを選び、乗っているという。なぜ、今勢いのあるスタイリッシュで超クールなライディングスタイルを持つカナディアンライダー2人が!? その理由を探ってみた。

マックス・エバーハート

MAX EBERHARDT

難しいトリックも、
リラックスしてクリーンにメイクする
スタイルが好きなんだ



マックスは1994年生まれ、20歳。今年4月にカナダでおこなわれた5starTTRワールドスノーボードツアーイベント「THE SHRED SHOW」のビッグエアで、世界のトップが勢揃いする中で優勝。さらに8月末にオーストラリアでおこなわれた「THE MILE HIGH」のスロープスタイルでも2位に入るなど、急進撃を見せている。

Q: ホームタウンはどんなところ?

M.E(MAX EBERHARDT): カナダのオンタリオ州、ノースベイが地元だよ。スゴク気に入ってる。自分がリラックスできる唯一の場所だね。外遊びが好きなら最高の場所だし、湖も超キレイ!地元にいる時は大体仲間とスケートしたり、なんかオモシロい事探したりしてるね。冬のノースベイは大体チョー寒い。あまりにも寒すぎて学校が休みになったこともあったよ。そんな時はいつも仲間と滑りに行ってたけどね。家族も親友もみんなそこに住んでるから、地元にいる時が一番好きな時間!

Q: スノーボードを始めたきっかけを教えてください

M.E: ホームマウンテンは、自分の家の裏にある林の中を30秒ぐらい歩いた丘なんだ。6歳まではずっとスキーをしていて、その年のクリスマスに両親がスノーボードを買ってくれた。メチャクチャ難しくて、最初はコケまくっ

てあまり好きになれなかったんだ。でも2、3週間ひたすらコケまくって、気合いが入ってからは完全にハマっちゃったね!

Q: 何歳ぐらいから大会に出始めたの?

M.E: 11歳の時からローカルコンテストやジャムセッションに出始めた。ローカルコンテストで勝ち始めたら、もっと大きなレールジャムやスロープスタイルに出場するために、遠くのスキー場へと両親が連れて行ってくれるようになったんだ。オンタリオ周辺のコンテストを2、3年回って、そのあと「CANADIAN OPEN」や「RIDE SHAKEDOWN」などの大きな大会に出場するようになった。最終的には国内のコンテストから国外のインビテーション・コンテストへとステップアップする必要があるから、ここ2シーズンはTTR(ワールドスノーボードツアー)ランキングを上げて行くことに集中しているんだ。

Q: 初めてスポンサーがついたのは?

M.E: 『モーメンタム』と言う地元のスノーボードショップが初めてのスポンサーだね。毎年シーズンの終わりにになるとパーク・ジャムコンテストを開催してるんだけど、ある年のジャムでボクがかなりブッ飛んだことをしたみたいなんだよね(540だったか、720かな?)。何日か後にオーナーのダン・ラージから「興味があったらチームに入らないか?」って電話があったんだ。たしか13歳の頃だったと思う。メチャクチャ嬉しかったよ! ほら、例えば誰かに「どこかのライダーかい?」なんて質問されたら、思いつき「Yeahhhhhhh!!」って答えてやれるなんて最高じゃん!

Q: これまでどんな活動をしてきたの? ムービーとかは?

M.E: シーズンごとのライディングをまとめるぐらいで、ガッツリとムービーを撮ったことはまだ無いよ。もしもそのチャンスがあればゼッタイ撮ってもらいたいね。何度もトライしてメイクしたトリックを映像に納めて、それを自分で観るなんて最高だろうな。今はコンテストに集中してるからほとんどパークしか滑らないけど、何でもこなせるオールラウンドなスノーボーダーを目指してる。

Q: どんなスタイルのライディングが好き?

M.E: どんなトリックだろうとイージーに、しかも力を抜いた感じでラクに、そしてクリーンにメイクするスタイルが好きだね。ノルウェー人のスタイルが大好きだよ。ノルウェースタイル最高!(笑)

Q: 自分がリスペクトするライダーは?

M.E: ハーフパイプ、レール、ジャンプでヤバイスノーボーダーはみんなリスペクトしてるよ。自分がハーフパイプでビビらなければもっといいんだろうけど。

Q: 当面の自分の活動の目標は?

M.E: 今はとにかく練習して自分を伸ばすこと、そしてコンテストで自分の名前を表に出すこと。フィルム・プロジェクトに参加するのも一つの目標だね。出来る限り多くのキャリアを積むことがゴールさ。



左がマックス。ボールマウントで撮影しているのがアントワヌ。2人は一緒に活動することも多く、互いに刺激し合い、バイブスを高め合ういい関係だ

レールに飛び乗るのが
スゴく楽になったんだ (マックス)

軽いのに強度も反発も十分、
ハードにライディングするほど
安定するんだ (アントワヌ)

マックス・エバーハート

MAX EBERHARDT

アントワヌ・トゥルシオン

ANTOINE TRUCHON

Q: YONEXのボードに乗るようになったいきさつは?

A.T(ANTOINE TRUCHON): YONEXとは1年前が初めての出会い。コーチのマックス・ヘナールにすすめられて、最初はなんとなく試してみたけど、乗った瞬間から「これはいい!」って思ったんだ。その後、「ライダーになってみたい?」って誘われたんだ。最初はチョット戸惑ったけど、世界で最高の板を作るブランドだって思ったし、すぐにOKしたよ。

M.E: 僕も最初はコーチのマックスがYONEXのことを教えてくれた。昨年アントワヌがチームに加入したこともあって、コーチからもサンプルを何本か試してみるチャンスをもたらしたんだ。そうしたらもの凄く調子が良くて驚いたんだよ。去年のシーズン後、コーチのマックスがYONEXのチームマネージャーに「ライダーを探していないか?」って連絡してくれたんだ。ボクもコンテストでいい成績を残していたから、彼は喜んでチームに引き入れてくれた。今期からチームの1人になって超嬉しいよ!

Q: 実際にYONEXボードの乗り心地はどう?

A.T: クオリティーも乗り味も最高! ハードにライディングすればするほど、本当に安定する板なんだよね。頑丈で

何をやっても壊れなそう!

M.E: YONEXの板は最高。乗っててメチャクチャ楽しいし、今まであんなに軽い板に乗ったことは無いよ。足の下には何もないかのように感じたからビックリだね。本当に軽いから、レールに飛び乗るのがスゴく楽になった。調子がいい板だね!

Q: 2人とも「STYLE」というモデルに乗っているようにけど、これを選んだ理由は?

A.T: とりあえず名前が好きだよ!それにキャンパーベースである所も選んだ理由のひとつ。初めて乗った時も自分のライディングにピッタリのフレックスだし、コイツを選んで良かったと思うよ!
M.E: 『STYLE』は最高のオールラウンドボードだよ。この前の春に試乗して、速攻気に入ったんだ。キャンパーってところも自分にピッタリ! まるでスケートボードのように操作性に優れていて、なおかつエッジが効いているとこがいい。それにあのマジで目立つベース・グラフィックがお気に入り!

Q: マックスとアントワヌとは一緒に滑ったりするの?

M.E: モチロン! レールもジャンプもガンガン攻めるアントワヌと滑るのはチョー楽しいよ! 彼はメチャクチャ面白くてジョークばかりいつも言い合ってる、そんな最高のバイブスをくれるヤツだよ。

A.T: チャンスがあればゼッタイ一緒に滑るよ。今はオーストラリアで滑りながら生活も共にしているし、シーズン後半になればTTRツアーやトリップでまた一緒になるからそのチャンスはイッパイあるよ。それに、僕とは違うスタイルを持っているし、彼のライディングを見ているだけで新しいアイデアが産まれてくるよ。お陰で難しいトリックもメイク出来るようになったんだ。

Q: 今シーズンもさらに活躍できそうだね?

M.E: YONEXチームに入れてとてもワクワクしているんだ。自分でもスゴくバイブスが上がってるよ。シーズンインを迎えるのが待ち遠しいよ。

A.T: YONEXは僕をただ1人のライダーとしてじゃなく、チーム全員の1人としても他のライダーと同等に扱ってくれる。いいファミリーと共にシーズンを迎えるのが楽しみだよ。